長引く痛みはなぜ起こる？

PR vol.07

～新治療 さくがわクリニックのカテーテル治療～

文・佐久川 貴行（さくがわクリニック院長）

（第3週に掲載）

さくがわ・たかゆき
2021年9月、浦添市前田にさくがわクリニックを開院。モヤモヤ血管が原因で起こる長引く痛みで悩む患者さんに運動器カテーテル治療・動注治療を提供。放射線診断専門医。IVR（画像下治療）専門医・指導医。運動器カテーテル治療研究会・監事。

長引く痛みでお悩みの患者さんに運動器カテーテル治療・動注治療を提供する、浦添市前田のさくがわクリニック院長が、さまざまな疾患とその治療法について解説します。

30～50歳代、糖尿病患者に多く発症 ひじの外側の痛み

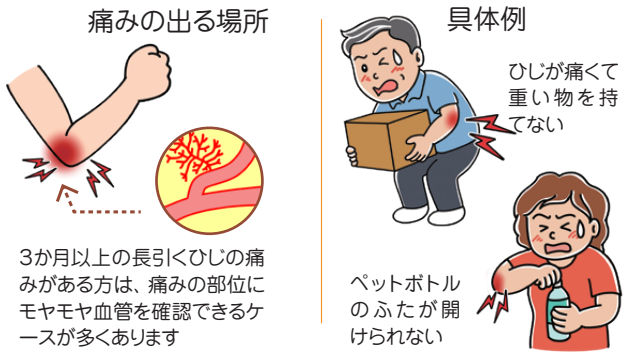
ひじが痛くて重い物を持てない、ペットボトルのふたが開けられない、などの症状は、テニス肘（ひじ）の可能性が高いです。テニス肘はモヤモヤ血管による長引く痛みが生じる疾患の一つです。テニスやバドミントンなどラケットを使うスポーツでひじの外側を痛めることが多いため、テニス肘と呼ばれています。中指の付け根からひじの外側につながる筋肉に慢性的な負荷がかかると、ひじの外側にくっついている筋肉の端（腱）またはその周囲に炎症が生じ、長引く痛みとなってしまいます。

テニス肘（ひじ）による長引く痛み

重症ではなかなか改善しないケースも

テニス肘は20歳代の若年層では発症率が低く、30～50歳代に多く発症します。発症率は約1～4％とされ、男女差は明らかでありません。ひじ外側への慢性負荷で痛めることが多いので、スポーツだけでなく、仕事で同じ動作を繰り返す方（調理師、保育士など）にも発症することがあります。また、繰り返しの負担が大きい方ほど重症になる傾向があります。また糖尿病の持病がある方は、糖尿病の持病がない方と比べて、テニス肘の発症率が約3倍高いとの報告があり、慢性的な高血糖状態もテニス肘の発症に影響があると考えられています。

テニス肘では、重たいもの（フライパン・スーパーの荷物）を持つ、ひじを回す（雑巾絞り・ドアノブをひねる・ペットボトルの蓋を開ける）、などでひじ外側の骨のでっぱりやその周囲に痛みが生じます。重症の方は500ミリリットルペットボトルなど軽い物を持つ動作でも痛みが生じます。3か月以上の長引くひじの痛みになっている方は、超音波検査で痛みの部位に異常新生血管（モヤモヤ血管）を確認できることがあります。



一般的な治療法は、安静、鎮痛薬、ステロイド注射、理学療法（ストレッチ・筋力訓練）、サポーター（テニスバンド）などさまざまな治療が行われています。軽症の方はこれらの治療の組み合わせで改善することがほとんどです。重症の方は治療を続けても、症状がなかなか改善しない方も多数いらっしゃいます。従来の治療を受けて一時的に軽減したが、同じような負荷をかけると元の状態に戻ってしまう方は重症と考えて良いです。

運動器カテーテル治療で多くの軽減例

重症のテニス肘の方に、当院では運動器カテーテル治療を提供しています。手首の脈が触れる血管にカテーテルを挿入し、ひじ関節まで進め、直接投薬することでモヤモヤ血管を減らす治療です。歯科治療と同じ部分麻酔で行います。治療時間は片側約40分程度の日帰り手術です。

治療後経過には個人差がありますが、概ね1～2か月後に痛みが軽減する方が多いです。元々、ひじへの慢性負荷により痛みが生じているため、治療後はセルフケアが重要になります。仕事やスポーツなどひじに負担をかける動作はすぐに元通りには行わず、徐々にベースアップする必要があります。痛みが出る動作は極力避けることが望ましく、理学療法の併用も効果的です。

長引く痛みへのカテーテル治療
当院は自費診療です
五十肩、ひざの痛み、ヘバーデン結節（指の痛み）、その他関節痛
さくがわクリニック
SAKUGAWA CLINIC

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00～14:00	●	●	●	▲	●	★
午後 16:20～17:40	●	▲	●	／	●	／

●／外来・手術 ▲／不定期診療 ★／10:00～11:40
浦添市前田1丁目11番1号 1階
予約制 ☎098-877-5577
https://www.sakugawa-clinic.com/